

あいさつがこだまする学校 くるのが楽しい学校

阿小の友

つながる学校 しょうらいの夢がもてる学校

ミッション（使命）

「一人一人に小さな自信を育てる」

■ 学校だより ■

第8号（通巻19号）

平成29年3月2日

高根沢町立阿久津小学校

「3つの学び」を育てます。



見えるもの（学力）と見えないもの（学力）



～「見えないもの（学力）を見る眼」が大切～



暦の上では春となり、朝夕の寒さはありますが、日中の日差しは暖かさを増しています。なぜか、体だけではなく心の中にも温もりを感じるように思います。阿小っ子の心の温かさが、そう感じさせるのですね。

春はもうすぐです。我が家の庭先にフクジュソウ（福寿草）が咲き始めています。フクジュソウの花言葉は「幸せ」とのことです。子どもたちに「幸せ」がたくさん訪れるよう、根気強く寄り添っていきましょう。



フクジュソウ
花言葉「幸せ」

2月に新しい仲間2名が増えて、529名で学年末を迎えることとなります。6年生は3月17日（金）の卒業式まであと11日、1～5年生は3月24日（金）の修了式まであと15日の登校日数です。子どもたちの成長への励ましの「ほめ言葉」をお願いします。

「終わり良ければすべて良し」、「立つ鳥跡を濁さず」というような言葉もありますが、小学校・学年のまとめのゆとりをもち、中学校や新学年への期待に胸を膨らませるような毎日を過ごさせたいものです。そのためには、私たちの見通しをもった取組が大切です。毎日の生活に忙しく追われがちですが、「忙しい」の「忙」は「心を亡くす」と書くと書われます。子どもたちにはゆとりある気持ちで接するよう心がけたいですね。

見えるもの（学力）



海面下

見えないもの（学力）



海に浮かぶ冰山

子どもたちの1年間の振り返りをする時、私たちは表面に見える、分かりやすい子どもたちの言動だけで評価（判断）しがちではないでしょうか。この1年間で、お子様のよさ（学力）が必ず伸びています。それは、一方向からの見方では、見えにくい、気付かないよさ（学力）かも知れません。「見えるもの（学力）」を正しく見るだけでなく、「見えないもの（学力）」も見られる目が、私たちには求められています。

愛する我が子です。我が子のよさをしっかり認め、そのよさを伸ばすような声かけなどの働きかけをしていきましょう。お子様は、更に伸びていきます。

「育てられたようにしか育てられない。」という言葉があります。自分自身が子どもだったころをちょっと振り返り、愛する我が子に寄り添っていきましょう。

p.s. ちょっと疲れたときは、遊びに来てください。好好爺？が、おいしいお茶を用意してお待ちしています。（3人の男の子の子育て経験が、ちょっと？あります。）



「地域とともにある学校」づくりを推進します。

～地域は教室、地域は先生、地域は学習材～

第2回学校評議員会と阿久津小学校教育振興委員会の合同会議を、学校関係者評価委員会を兼ねて、2月15日(水)に開催しました。何かと御多用のところ、学区内の区長様、主任児童委員様、学校評議員様が御参加くださいました。ありがとうございます。阿小っ子の力強い地域の応援団の代表の方々です。

3校時の授業参観をしていた
だいた後、学校評価を基にした
1年間の振り返りの説明をさ



せていただき、参加者の皆様との意見交換
を行いました。あいさつ、登校時の様子、
児童の体力の実態、いじめ問題等について、
貴重な御意見をいただきました。

これからも保護者・地域の皆様と一緒に、阿小っ子が更によりよくなるよう取り組み、
「地域とともにある学校」づくりを推進します。御理解と御支援をお願いいたします。
なお、学校から地域連携教員も参加しましたので、地域連携教員について御紹介します。



地域連携教員は、地域連携に関する学校の窓口です。「学校と地域が連携
した教育活動を、生涯学習の視点から効果的・効率的に展開することにより、
子どもの生きる力を育成するとともに地域に根ざした特色ある学校づくり
を推進するため」に、平成26年度から栃木県に設置されました。
ちょっと難しいでしょうか。まずは、いつでもどなたでも学校に足を運ん
でください。お待ちしております。学校も、地域にどんどん足を運びます。

折り鶴を廊下に置いてみました。

それは、不思議な物語の始まり…?

それは本当に不思議な力をもっているようです。事の始まりは、県外のある小学校の児童会が「みんなが廊下を走らずに静かに歩くようにするにはどうしたらよいだらう。」という話し合いをした結果、廊下に折り鶴を置いてみようとなつて取り組んだところ、走る人が少なくなり、静かに歩くようになったとの昨年12月のTV報道でした。

そこで我が校でも、廊下の角に
れがいつの間にか増え続け、1月
Aで御覧になったとおりになっ
くれたり家庭で折って届けたり
下に固定していませんから、あち
ちになつてしまう折り鶴があ
場所に戻して、そろえてくれる阿
みは、この取組をこれからどうし
って子どもたちに任せてみようかとも考えています。「鶴の恩返し」があるかどうかは分かりませんが、子どもたちの心の中に何か芽生えているような気がしています。



試しに置いてみました。すると、そ
の自由授業参観や2月の学年末PT
ています。休み時間に折って置いて
してくれています。ありがとう。廊
らこちらに仲間外れのように独りぼ
ります。すると、その折り鶴を元の
小っ子もいます。現在のうれしい悩
ていこうかということです。思い切
りませんが、子どもたちの心の中に何か芽生えているような気がしています。

